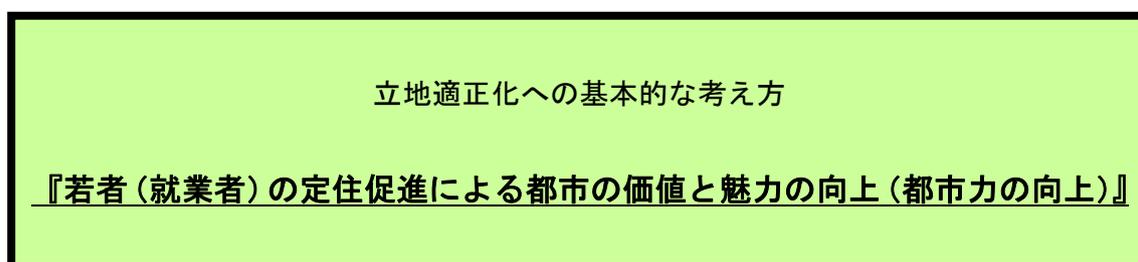


第9章 基本的な方針

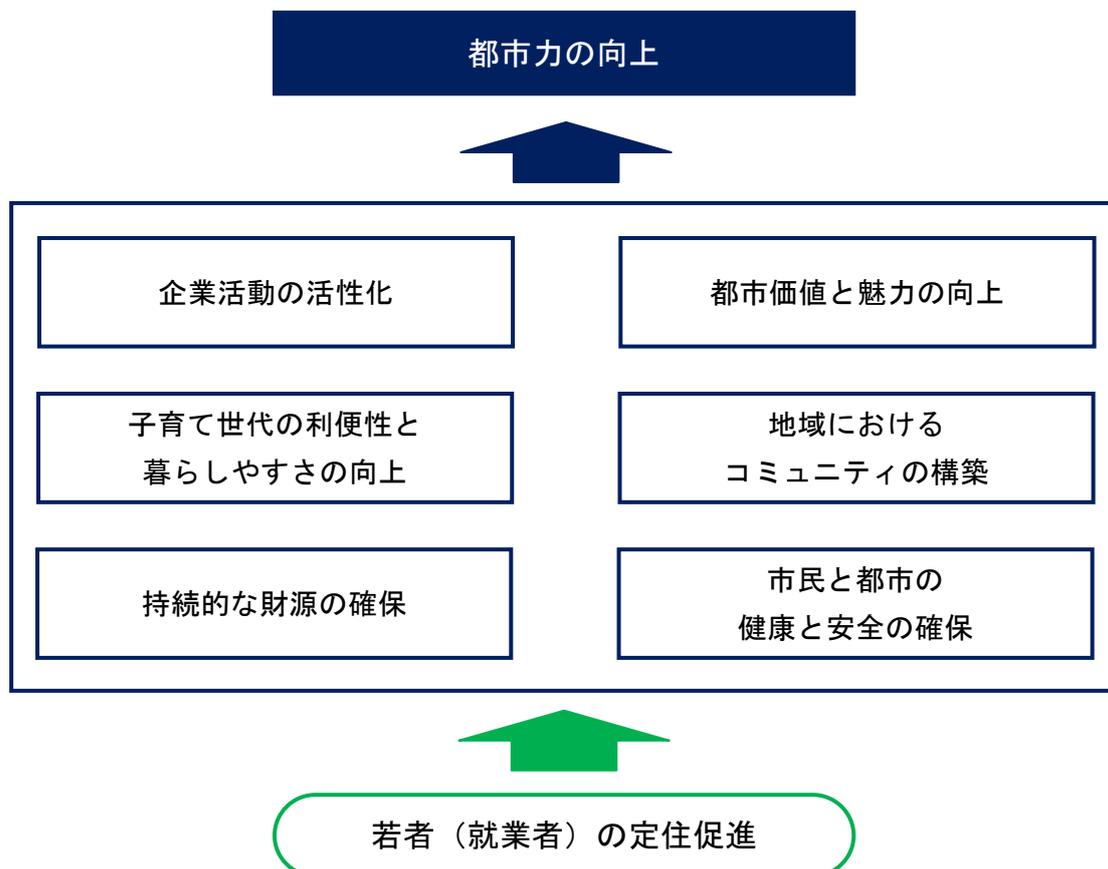
1. 立地適正化への方向性

立地適正化計画では、交通の要衝としての強みと内陸工業都市としての企業立地を都市の活性化につなげるため、本市の都市形成の課題を明らかにし、その課題を解決するとともに、特に若者の定住促進を図るべく、今後の都市形成の考え方を立地適正化への方向性として示すものです。

立地適正化への方向性は、企業立地のポテンシャルを都市の活力につなげるため、『若者（就業者）の定住促進による都市の価値と魅力の向上』を基本に、鉄道駅を中心とした既成市街地への都市機能及び居住の誘導等を効率的・効果的に進めることで、本市の「都市力」の向上を図りコンパクトなまちづくりを実現するものとします。



□都市力向上のイメージ



2. 目指すべき都市の骨格構造

目指すべき都市の骨格構造は、都市マスタープランが都市機能の集約化による拠点形成と市内及び近隣する市との多様なネットワークが構築された都市づくりを目指していることから、都市マスタープランの将来都市構造とします。

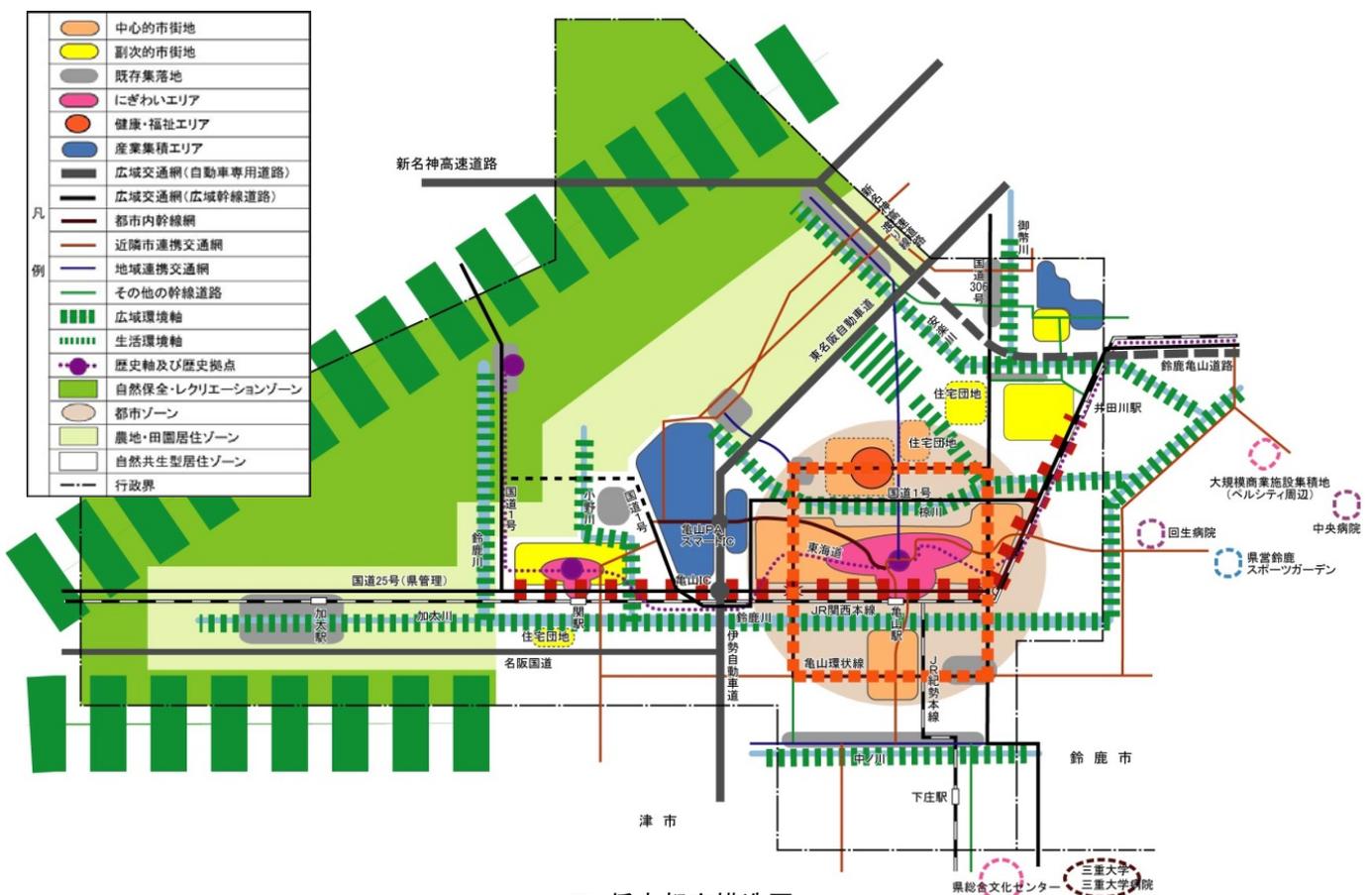
それを要約すると、以下のとおりです。

■都市づくりの理念と目標

「自然や歴史に包み込まれた都市を継承し、暮らしやすいまちへ」

本市の特徴である豊かな自然環境や東海道を軸とした歴史資源、さらにはそれらと一体となった東西に伸びる都市の姿を継承するなかで、それらを活かしたさらなる暮らしやすさと質の向上を図るため、都市機能の集約化による拠点形成と市内及び隣接する市との多様なネットワークが構築された都市づくりを目指します。

- 目標 1：現在の地形特性を守り活かす都市形成
- 目標 2：歴史文化資産を活かした都市づくりの推進
- 目標 3：都市の拠点機能強化
- 目標 4：まとまりのある居住地の形成
- 目標 5：都市機能拠点と居住地のつながりの強化
- 目標 6：近隣市とのつながりの確保による補完関係強化



3. 誘導方針

2016（平成 28）年 2 月に策定した亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、概ね 40 年後の 2060（平成 72）年の将来人口展望として概ね 50,000 人の総人口確保を目指すものとしています。

この将来人口展望の目標人口確保のため、まち・ひと・しごと創生総合戦略の 4 つの基本目標と立地適正化の基本方針の考え方から、以下の誘導方針を示し、若者の定住促進に向けた居住誘導や都市機能誘導を進めます。

■亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標

基本目標Ⅰ

まちの魅力や価値を高め、選ばれる都市をつくる

基本目標Ⅱ

出産・子育てを支え、郷土愛を持つひとを育てる

基本目標Ⅲ

若者の未来への希望を応援し、暮らしを支える

基本目標Ⅳ

つながり、見守り、助けあえる地域社会をつくる

■立地適正化への基本的な考え方

『若者（就業者）の定住促進による都市の価値と魅力の向上（都市力の向上）』

誘導方針

【方針 1】 亀山駅を中心とした中心的都市拠点の強化

亀山駅、関駅、井田川駅といった都市拠点を中心に、地域の特性を活かした都市拠点の機能の充実・確保を図るとともに、亀山駅周辺地区においては市域全体の中心的都市拠点として拠点性の強化を図ります。

【方針 2】 鉄道駅を中心とした既成市街地への都市機能及び人口誘導によるコンパクトなまちづくり

既存の都市基盤や都市機能を活かし、鉄道駅を中心とした既成市街地への都市機能や人口の誘導を行うことで、コンパクトで日常サービス等の利便性の高いまちづくりを推進します。

【方針 3】 鉄道等の広域交通網を中心とした交通拠点性の強化による都市の活力向上

将来にわたり利便性が高く持続可能な都市を形成するため、鉄道等の広域交通網を中心とした交通拠点性をさらに強化するとともに、都市と公共交通が連携した都市構造の実現により、都市の活力の向上を図ります。

【方針 4】 歴史的風致や都市環境に配慮した都市空間の形成

都市の歴史的背景や市街地配置状況、さらには地形特性など、本市の歴史的風致や都市環境などに配慮した適正な都市機能及び居住の誘導により、魅力的な都市空間の形成を図ります。

【方針 5】 安全な居住環境確保に向けた都市の安全性向上

土砂災害や河川災害などの災害リスクに対する都市の防災力を向上させるとともに、災害リスクに対応した居住等の誘導を図ります。

都市の特徴

市街地の概要と土地利用の変遷

- 将来展望のキーワード**
- ・ バランスの取れた年齢構成で人口を安定化
 - ・ 住み、働くことのできる暮らしやすいまち
 - ・ 街道文化と魅力ある景観の保全・創出
 - ・ 子育て支援、子育て交流
 - ・ 健康都市

1. 都市の部門別課題

- (1) 都市の概況における課題
- ① 用途地域外への市街地拡散の抑制
 - ② 都市経営を意識した拠点性向上や既存都市基盤を活用した都市の形成
- (2) 交通に関する課題
- ① 自動車に依存した都市構造の改善
 - ② 基幹公共交通である鉄道の有効活用
- (3) 人口動向に関する課題
- ① 用途地域外よりも人口減少率が大きくなる用途地域内への対応
 - ② 既成市街地や既存住宅団地における急激な人口減少や高齢化への対応
 - ③ 用途地域外等の市街化圧力がある地区への市街地拡散の進行抑制
- (4) 災害リスクに関する課題
- ① 市街地を災害から守る対策の実施
- (5) 財政と公的不動産の分野における課題
- ① 良好な都市形成に向けた都市の価値の向上
 - ② 将来の都市形成と連携した公的不動産の適正化

2. 都市形成の課題

<都市力の低下>

- ① 企業立地による就業者の増加等が、商業や居住など都市の活性化に、十分に寄与していない状況の改善が必要
- ② 都市の拠点性が高くない都市構造が土地価格の低下等につながり、固定資産税等の減収を招いていることから、今後更新時期を迎える都市機能の適正配置による拠点性向上や既存都市基盤を活用した都市形成が都市経営上重要
- ③ 市街地形成の歴史や現況都市機能施設の配置状況等に配慮した、人口誘導及び都市形成が必要
- ④ 都市基盤が脆弱な用途地域外の人口増加が進むことで、市民全体に対する日常サービスの利便性が低下するとともに、自動車に依存した都市構造がさらに進行することから、市街地拡散の制御による適正な都市形成が必要
- ⑤ 都市基盤が整備された市街地や歴史的に重要な既成市街地において人口減少が顕著であり、市街地再生による中心部の都市機能及び人口誘導が都市形成上必要
- ⑥ 移動困難者の移動手段の確保や市の財政への負担軽減等のため、基幹公共交通である鉄道の有効活用により、都市と公共交通が連携した都市構造の実現が必要
- ⑦ 市街地において風水害等による被災の危険性が高い地域が多く存在することから、市街地を災害から守る対策が必要

都市
マスタープランの
将来都市構造の実現

+

総合戦略における
目標人口の確保
(若者の定住促進)

3. 立地適正化への方向性

立地適正化への基本的な考え方

『若者(就業者)の定住促進による都市の価値と魅力の向上(都市力の向上)』

- 誘導方針**
- 【方針1】**
亀山駅を中心とした中心的都市拠点の強化
- 【方針2】**
鉄道駅を中心とした既成市街地への都市機能及び人口誘導によるコンパクトなまちづくり
- 【方針3】**
鉄道等の広域交通網を中心とした交通拠点性の強化による都市の活力向上
- 【方針4】**
歴史的風致や都市環境に配慮した都市空間の形成
- 【方針5】**
安全な居住環境確保に向けた都市の安全性向上

【都市力の向上】